

05/1/21：於サブリ村野

NPO 化勉強会

出席者：9名（事務局含む）

講師：NPO センター 堀野氏

資料：環境ネットワーク会議勉強会、ひらかた NPO センター運営協議会 2004 年度定時総会議案書、平成 15 年度枚方市内 NPO 実態調査レポート

講義内容

NPO センターの実際の事業形態について、組織図、講義内容については、環境ネットワーク会議勉強会の資料を参照。

アドバイス

- ・ 定款については大まかに作っておき、会則で詳細を決定しておくほうが、後々活動しやすい。（定款は、1 度決めると総会でしか変更が効かないため融通が利かない。）
- ・ 趣意書には、なぜ法人格が必要なのか等の法人格取得理由が必要。
- ・ 大学の研究室とつながりがあると、大学生の力を利用する事が出来る。

NPO センターの形態について

計画・予算などについて

- ・ 現在、市からの補助金で組織運営をしているが、将来は独自の収益事業を作って、そちらに重心が移るようにしていかなければならない。
- ・ 予算の約 8 割が人件費。
- ・ プロジェクトは、各部が責任を持って実施する。各部が上げた利益については、利益を上げた部に配分する。
- ・ 事業計画は市からの予算提示を見てから作るため 11 月以降に作成する。
- ・ 現状の事業計画の作り方としては、
運営委員会から、方針を出しそれに基づき各部会が作成する。
各部会が提出した事業計画を受け、運営委員会が検討し、各部会に下ろす。

運営体制について

- ・ 理事が多いので、決定に時間がかかる。年 3 回の理事会では、日々の運営の話までは出来ないのが現状。
- ・ 理事会は年 3 回開催。運営委員会は月 2 回開催。
- ・ 組織の方向性は理事会で検討し総会で決定する。
- ・ 現場の実働部分の方針は、運営委員会が決定する。

行政との関係について

- ・ これまで、NPO センターから行政に提言し事業化したケースはない。
- ・ 行政とのやり取りは市民活動課を通しておこなっている。
- ・ 行政との関係について、市民活動課との関わりがほとんど、予算折衝も市民活動課と行

なっている。NPO フェスタ等についても事前準備を市民活動課にしている。

- ・ 市民活動課から運営委員に 1 名、理事に 1 名入っている。

その他

- ・ NPO センターの会員になるメリットは、優先的に部屋が借りられるようになる事と、会報が手に入ることである。
- ・ 職員採用は、公募で勤務形態はNPO センターが決めている。